

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	解剖生理学 I	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師4名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 対象の健康障害や疾患の理解、看護を理解するために必要な、正常な人体の構造と機能について系統的に学ぶ。				
[目標] (消化器系)				
1. 人体の構造と機能を学ぶ必要性を理解する。				
2. 人体の素材としての細胞・組織の構造と機能を理解する。				
3. 栄養と消化吸収に係る構造と機能を理解する。				
4. エネルギーの取り組みに関与する人体の消化吸収のしくみについて理解する。				
[目標] (呼吸・血液系)				
1. 呼吸器の構造について理解する。				
2. 呼吸器・血液の働きについて理解する。				
3. 呼吸器系と血液を介しての物質のやりとりについて理解する。				
4. 循環器系の構成と心臓の機能を理解する。				
5. 血液の循環とその調節について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、PP、DVD、等)
A	1	人体の構造と機能を学ぶために		講義・PP
	2	解剖生理学のための基礎知識 形から見た人体		↓
	3	素材から見た人体 機能から見た人体		↓
	4	栄養と消化吸収に係る構造と機能 口・咽頭・食道の構造と機能		↓
	5	腹部消化管の構造と機能 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 腹膜		↓
B	6	呼吸器の構造		講義
	7	呼吸		↓
	8	血液		↓
	9	まとめ		↓
	10	循環器系の構成 心臓の構造		講義・PP
	11	心臓の拍出機能 心臓の興奮と伝達 心電図 心臓の収縮		↓
	12	末梢循環系の構造 血管の構造 肺循環の血管 体循環の静脈		講義・PP
	13	血液の循環の調節 リンパとリンパ管		↓
A	14	解剖生理学 I のまとめ		個人学習
		学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 序章～2章・3章・4章 医学書院		評価割合：単元A 40%、単元B 60% 学科終了試験 授業への取り組み姿勢		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む (予習・復習) 前回の講義資料を復習する *解剖生理ワークブックを行う 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある消化器外科の医師、循環器内科医師、内科医師2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数・時間数等	1単位 30時間	外部講師 医師3名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
対象の健康障害や疾患の理解、看護を理解するために必要な、正常な人体の構造と機能について系統的に学ぶ。				
[目標] (腎・泌尿器・生殖器系)				
1. 腎臓の機能と構造を理解する。				
2. 体液の調節と尿の生成について理解する。				
3. 受精から死に至る人体の構造・機能を理解する。				
[目標] (自律神経・内分泌系)				
1. 自律神経の機能・構造について理解する。				
2. 内分泌とホルモンについて理解する。				
3. 自律神経・ホルモンによる生体内部の環境の調整について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態 (講義、GW、PP、DVD、等)
A	1	5章 体液の調節と尿の生成について理解する 腎臓		講義
	2	腎臓		↓
	3	排尿路		↓
	4	体液の調節		↓
	5	10章 生殖・発生と老化のしくみ 男性生殖器		↓
	6	女性生殖器		↓
	7	受精と胎児の発生 成長と老化		↓
B	8	6章 内臓機能の調整 自律神経による調節		講義、PP
	9	自律神経による調節		↓
	10	内分泌系による調節		↓
	11	全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部 - 下垂体系 甲状腺と副甲状腺		↓
	12	全身の内分泌腺と内分泌細胞 膵臓 副腎 性腺 その他の内分泌腺		↓
	13	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際		↓
B	14	解剖生理学Ⅱまとめ		個人学習
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 5章 10章 6章 医学書院			評価割合：単元A 60%、単元B 40% 学科終了試験 授業への取り組み姿勢	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		テキストの関連部分読む(予習・復習) 前回の講義資料を復習する *解剖生理ワークブックを行う 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある内科医師3名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師3名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
対象の健康障害や疾患の理解、看護を理解するために必要な、正常な人体の構造と機能について系統的に学ぶ。				
[目標] (運動器系)				
1. 人体の骨や関節について理解する。				
2. 体幹の骨と筋肉について理解する。				
3. 身体の支持と運動について理解する。				
[目標] (脳神経系他)				
1. 身体内部・外部から刺激を受容し、処理する機能を持つ神経系について理解する。				
2. 外界の刺激を受容するしくみと、各刺激に応じた反応のしくみを理解する。				
3. 身体機能の防御と適応について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋		講義、PP
	2	体幹の骨格と筋 体幹上部で触知できる骨格部分、筋		↓
		体幹下部で触知できる骨格部分、筋		↓
		体幹で触知できる動脈・静脈		↓
	3	上肢の骨格と筋 上肢で触知できる骨格部分、筋、動脈、静脈		↓
	4	下肢の骨格と筋 下肢で触知できる骨格部分、筋、動脈、静脈		↓
5	筋の収縮① 頭頸部で触提できる骨格部分・筋・動脈		↓	
6	筋の収縮②		↓	
B	7	神経系の構造と機能		講義、PP
	8	脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脊髄神経の構造と機能		↓
	9	脊髄神経と脳神経 脳神経と機能		↓
	10	眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚		講義、PP
	11	痛み（疼痛） 脳の結合機能 記憶		↓
	12	皮膚構造と機能 体温とその調節		↓
13	生体防御機能		↓	
B	14	解剖生理学Ⅲまとめ		個人学習
学科終了試験				
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 7章 11章 8章 9章 医学書院			評価割合：単元A 40%、単元B 60% 学科終了試験 授業への取り組み姿勢	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する *解剖生理ワークブックを行う 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある外科整形外科医師、内科医師、内科外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	臨床生化学	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
【概要】 生体における物質代謝、エネルギー代謝を各臓器、組織間の相互作用のもとに学ぶ。				
【目標】 1. 生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の役割について理解する。 2. 生体を構成している基本物質について理解する。 3. アミノ酸のペプチド結合によるたんぱく質の構造・特性について理解する。 4. 酵素の性質および医療の分野において血清中の酵素活性を測定することによって、診断・治療にいかに関与しているかを理解する。 5. 解糖系⇒クエン酸回路⇒電子伝達系の反応過程を学ぶとともにそれに関連した糖尿病について理解する。 6. 脂質の種類、体内における脂質の役割および脂質からATPが生成される反応過程を理解する。 7. 生体におけるアミノ酸の代謝、アンモニアの無毒化反応、先天性アミノ酸代謝異常について理解する。				
【目標】 1. 遺伝子のしくみおよび遺伝子情報のしくみを理解する。 2. 体液の役割について理解する。 3. いろいろな内分泌腺から分泌されるホルモンとそれらのホルモンの作用について理解する。 4. 水溶性ビタミン及び脂溶性ビタミンの種類とそれらを含む食品及び体内における役割を学ぶ。 5. 内・外部環境が変化しても体内の内部環境の恒常性が保たれるしくみについて理解する。 6. 各栄養素の消化・吸収の過程を学ぶとともに、エネルギー量・消費エネルギー計算を理解する。 7. 血液の成分・役割ほか出血が止まるしくみ、血液型について理解する。 8. 尿に含まれる成分と尿の生成・排泄されるしくみと意義について学ぶ。 9. 最近、ウイルスなどの外敵の侵襲に対し、生体の防御のしくみを理解する。 10. 生体の各臓器の主な働きについて理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	細胞の仕組みと働き、細胞内小器官		講義、PP
	2	タンパク質とアミノ酸		↓
	3	糖質		↓
	4	脂質		↓
	5	酵素		↓
	6	糖代謝、タンパク質代謝、脂質代謝		↓
B	7	遺伝のしくみ		講義、PP
	8	微小循環と血、膠質浸透圧		↓
	9	浮腫、水の出納		↓
	10	脱水、電解質の異常		↓
	11	酸塩基平衡		↓
	12	酸塩基平衡異常と代償作用		↓
	13	内分泌		↓
	14	↓		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
わかりやすい生化学（廣川） 疾病と代謝・栄養の理解のために 系統看護学講座 別冊 臨床検査 医学書院			評価割合：単元A 40%、単元B 60% 学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある大学准教授が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	臨床栄養学	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 生命の維持、健康の促進・回復のために必要な栄養、食生活について栄養学的視点から学ぶ。				
[目標] 1. 人間の栄養学と看護の関係、栄養補給について理解する。 2. 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解する。 3. 栄養の状態の評価判定について理解する。 4. ライフステージと栄養について理解する。				
[目標] 1. 健康障害に対する食事療法について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	人間栄養学と看護		講義、PP
	2	栄養素の種類とはたらき		↓
	3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝		↓
	4	エネルギー代謝		↓ GW
	5	食事と食品		↓
	6	栄養ケアとマネジメント 栄養状態の評価		↓
	7	ライフステージと栄養 健康づくりと食生活		↓
B	8	栄養食事療法とは ～ 症状を持つ患者の栄養食事療法		講義、PP
	9	呼吸器疾患患者・循環器疾患患者の栄養食事療法		↓
	10	消化器疾患患者・腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法		↓
	11	栄養代謝性疾患患者・血液疾患患者の栄養食事療法		↓ GW
	12	アレルギー疾患患者・精神・神経疾患患者の栄養食事療法		↓
	13	熱傷・褥瘡の栄養食事療法 術前・術後の栄養管理 がん患者の栄養食事療法		↓
	14	妊産婦・更年期女性・小児・高齢者の栄養食事療法 医療保険制度・介護保険制度と食事		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 [3] 系統看護学講座 別冊 栄養食事療法 医学書院			評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある管理栄養士が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	病理学概論	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師 医師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要]				
<p>患者の体内で細胞や組織、生理機能がどのように障害されて、疾患を引き起こしているのか、また疾病の発生傾向や発生要因などについて理解し、根拠をもって看護活動に取り組むことができるようにする。</p>				
[目標]				
<p>1. 病気の原因を明らかにする。</p> <p>2. 患者の身体の中でどのような変化が生じているのかを明らかにする。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	病理学で学ぶこと 生活習慣と環境因子による生体の障害			講義、PP
2	炎症 免疫、移植と再生医療			↓
3	感染症			↓
4	循環障害			↓
5	代謝障害 老化と死 細胞・組織の損傷と修復、			↓
6	先天異常と遺伝子異常			↓
7	腫瘍			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院		学科終了試験		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある形成外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	臨床薬理学	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 薬剤師6名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について学び、治療的回復の基礎理解する。				
[目標] 1. 薬理学の概念を理解し、現代医学における薬物療法について理解する。 2. 代表的な薬物の秩序・特徴・副作用・薬物の取り扱いについて理解できる。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	薬理学を学ぶにあたって		講義
	2	薬理学の基礎知識		↓
	3	抗感染症薬		講義
	4	抗がん薬		↓
	5	免疫治療薬 抗アレルギー薬・抗炎症薬		講義
	6	末梢での神経活動に作用する薬物		↓
	7	中枢神経系に作用する薬物		↓
B	8	循環器に作用する薬物		講義
	9	循環器に作用する薬物		↓
	10	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物		↓
	11	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物		↓
	12	物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬・眼科用薬 消毒薬		↓
	13	救急に際に使用される薬物		↓
	14	漢方薬 付章 輸液製剤・輸血剤 付章 輸液製剤・輸血剤		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院		評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある薬剤師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	臨床微生物学	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師 医師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要]				
微生物がどのようなものか。さらには病原微生物による感染症を理解したうえで、感染症に対する予防や治療について臨床現場で役立つ知識を修得する。				
[目標]				
1. 微生物についての基礎知識、感染と発病、感染症の予防と治療についての知識を得る。				
2. 感染防御にかかわる免疫学について基礎的な知識を得る。				
3. 原因微生物の汚染ルートがみえるような感染経路の捉え方を学ぶ。				
4. 病原体とそれによっておこる疾患との関連を理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	微生物と微生物学～真菌の性質			講義、PP
2	感染と感染症～感染に対する生体防御機構			↓
3	感染源・感染経路からみた感染症～感染症の治療			↓
4	感染症の現状と対策			↓
5	病原細菌と細菌感染症			↓
6	病原真菌と真菌感染症			↓
7	病原ウイルスとウイルス感染症			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院		学科終了試験		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	病態学Ⅰ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師2名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 消化器系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 消化器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 消化器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 消化器系の特有の疾患について理解する。				
[概要] 内分泌・代謝系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 内分泌・代謝に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 内分泌・代謝に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 内分泌・代謝の特有の疾患について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、G W、P P、DVD、等）
A	1	消化器の構造と機能（解剖生理復習） 症状・その病態生理		個人学習
	2	検査・治療 疾患の理解(食道・胃・十二指腸)		講義、P P
	3	疾患の理解(腸および腹膜)		↓
	4	疾患の理解(肝臓・胆嚢、膵臓他)		↓
	5	病院演習		↓
	6	病院演習		↓
	7	肝硬変（病態関連図）		個人学習
B	8	内分泌・代謝器官の構造と機能(解剖生理学復習)		個人学習
	9	症状とその病態生理 検査		講義、P P
	10	疾患の理解（内分泌）①		↓
	11	疾患の理解（内分泌）②		↓
	12	↓（代謝：糖尿病）		↓
	13	↓（代謝：脂質異常他）		↓
	14	糖尿病（病態関連図）		個人学習
		学科終了試験		
【使用テキスト】 医学書院				
単元A：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学[5] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第8章 消化・吸収のしくみと病態生理		単元B：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学[6] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第10章 内分泌・代謝のしくみと病態生理		
【単位・成績の認定方法】 評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		解剖生理の復習及び第2章「消化器の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第2回と第3回を復習する 解剖生理の復習及び第2章「内分泌・代謝器官の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第9回を復習する テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある外科医師、内科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	病態学Ⅱ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師3名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 循環器系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 循環器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 循環器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 循環器系の特有の疾患について理解する。				
[概要] 腎・泌尿器系、女性生殖器についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. 腎・泌尿器系、女性生殖器の構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 腎・泌尿器系、女性生殖器疾患系の特有の疾患について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、G W、P P、DVD、等）
A	1	循環器の構造と機能（解剖生理学復習）		個人学習
	2	循環器系のはたらき 心臓の構造と機能 冠循環の異常		講義、P P
	3	心筋収縮の指令の障害 心房と心室の機能障害		↓
	4	心膜の障害 心不全 血圧調節のしくみと低血圧		↓
	5	血圧上昇による病態 動脈の障害 静脈の障害		↓
	6	チアノーゼ 講義のまとめ		↓
	7	心不全（病態関連図）		個人学習
B	8	腎・泌尿器の解剖・生理		講義、P P
	9	腎疾患の病態生理		↓
	10	泌尿器疾患の病態生理		↓
	11	まとめ		↓
	12	慢性腎不全（病態関連図）		個人学習
	114	女性生殖器 症状とその病態生理 診察・検査と治療・処置 疾患①		講義、P P
		疾患の理解②		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学[3] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第6章 循環のしくみと病態生理			評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学[8] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第9章 腎・泌尿器のしくみと病態生理			女性生殖器 成人看護学[9] 第2章～5章 第11章 生殖のしくみと病態生理	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間	解剖生理の復習及び第2章「循環器の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第6回と第7回を自復習する 解剖生理の復習及び腎・泌尿器の第2章「腎・泌尿器の構造と機能」と女性生殖器の第2章「女性生殖器の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第8回と第15回を復習する テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある内科医師、腎臓内科医師、産婦人科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	病態学Ⅲ	単位数・時間数等	1単位 30時間	外部講師 医師3名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 呼吸器系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 呼吸器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 呼吸器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 呼吸器系の特有の疾患について理解する。				
[概要] 血液・造血器系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 血液・造血器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 血液・造血器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 血液・造血器系の特有の疾患について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	呼吸器の構造と機能（解剖生理学復習）		個人学習
	2	疾患の理解 感染症Ⅰ		講義、PP
	3	疾患の理解 感染症Ⅱ		↓
	4	間質性肺炎など		↓
	5	気道疾患（気管支喘息/肺気腫など）		↓
	6	肺腫瘍（肺癌など）		↓
	7	肺がん（病態関連図）		個人学習
B	1	血液の生理と造血のしくみ（解剖生理学復習）		個人学習
	2	血液疾患の病態		講義、PP
	3	血液疾患の治療		↓
	4	疾患と治療の理解（赤血球系の異常）（白血球系の異常）		↓
	5	↓（造血器腫瘍）		↓
	6	↓（造血器腫瘍、出血系の異常）		↓
	7	貧血について（病態関連図）		個人学習
学科終了試験				
【使用テキスト】 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学[2] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第7章 呼吸器のしくみと病態生理 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学[4] 第2章～5章 副読本：病態生理学 第5章 血液のはたらきと病態生理			【単位・成績の認定方法】 評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15時間		解剖生理の復習及び第2章「呼吸器の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第4回と第5回呼吸を復習する 解剖生理の復習及び第2章「血液の生理と造血のしくみ」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第5回血液を復習する テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある呼吸器内科医師、内科医師、内科消化器外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	病態学Ⅳ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師2名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 運動器系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 運動器疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 運動器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 運動器系の特有の疾患について理解する。				
[概要] 脳・神経系についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 脳・神経疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 脳・神経疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 脳・神経系の特有の疾患について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	運動器の構造と機能（解剖生理学復習）		個人学習
	2	疾患の理解（外傷性（外因性）の運動器疾患）		講義、PP
	3	疾患の理解 内因性（非外傷性）の運動器疾患		↓
	4	疾患の理解 内因性（非外傷性）の運動器疾患		↓
	5	症状とその病態生理		↓
	6	診断・検査と治療・処置		↓
	7	椎間板ヘルニア（病態関連図）		個人学習
B	8	脳・神経系の構造と機能（解剖生理学復習）		個人学習
	9	症状とその病態生理		講義、PP
	10	検査・診断と治療・処置		↓
	11	疾患の理解（脳疾患）		↓
	12	疾患の理解（脊髄疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患）		↓
	13	疾患の理解（脱髄・変性疾患、内科疾患に伴う神経疾患）		↓
	14	パーキンソン（病態関連図）		個人学習
		学科終了試験		
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学[10] 第2章～5章		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学[7] 第2章～5章	評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験	
副読本：病態生理学 第12章 脳・神経・筋肉の働きと病態生理				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間	解剖生理の復習及び第2章「運動器の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第10回と第11回 を復習する 解剖生理の復習及び第2章「脳・神経系の構造と機能」を自己学習する 解剖生理学ワークブック 第12回 を復習する テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある整形外科医師、脳神経外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	病態学V	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師5名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] アレルギー・膠原病・感染・皮膚についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. その構造や機能が障害された状態を理解する。 <アレルギー> 2. アレルギー疾患に伴う症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. アレルギー疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. アレルギー特有の疾患について理解する。 <膠原病> 2. 膠原病 自己免疫疾患とその機序を理解する。 3. 膠原病疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 膠原病特有の疾患について理解する。 <皮膚> 2. 皮膚疾患とその機序を理解する。 3. 皮膚疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 4. 皮膚の疾患について理解する。				
[概要] 眼、耳、口腔についてを器官系統別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. 眼、耳、口腔の構造や機能が障害された状態を理解する。 2. 主な症状を理解するとともに発生の機序を理解する。 3. 眼、耳、口腔の検査と治療・処置を理解する。 4. 眼、耳、口腔の疾患を理解する。				
単元	回数	【授業内容】		学習形態
A	1	皮膚の構造など解剖生理復習		個人学習
	2	皮膚（3章）		講義、P P
	3	↓（4章）		↓
	4	↓（5章）		↓
	5	アレルギー 免疫のしくみとアレルギー、診断・検査と治療 症状と疾患の理解		講義、P P
	6	膠原病 自己免疫疾患とその機序 症状とその病態生理 検査と治療		↓
	7	疾患の理解 感染症とは 検査・診断 治療 疾患の理解（A～S）		↓
B	8	眼、耳鼻咽喉、歯・口腔の解剖生理復習		個人学習
	9	眼科（3章～4章）		講義、P P
	10	↓（5章）		↓
	11	耳鼻咽喉（3章～4章）		↓
	12	↓（5章）		↓
	13	歯・口腔（3章～4章）		↓
	14	↓（5章）		↓
		学科終了試験		
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ		アレルギー膠原病感染症成人看護学[11]	評価割合：単元A 50%、単元B 50%	
		・アレルギー第2章・膠原病第2章～4章・感染症第2章～5章	学科終了試験	
		皮膚 成人看護学[12] 第3章～5章		
副読本：病態生理学		第2章 皮膚と体温調節のしくみと病態生理	第13章D皮膚感覚とその異常	
副読本：病態生理学		第3章 免疫のしくみと病態生理		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ		眼 成人看護学[13] 第2章～5章	歯・口腔 成人看護学[15] 第2章～5章	
		耳鼻咽喉 成人看護学[14] 第2章～5章	副読本：病態生理学 第13章	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		解剖生理学ワークブック 第14回 を復習する 解剖生理学ワークブック 第13回 を復習する テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
		・実務経験がある皮膚アレルギー医師2名、眼科医師、耳鼻科医師、歯科医師が担当		

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	病態学Ⅵ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師 医師3名
		授業回数	14回 + 試験	
[概要] 小児について新体系別または病態別に疾患について学ぶ。				
[目標] 1. 小児特有の疾患について理解する。 2. 小児特有の各疾患の病態・症状について理解する。 3. 小児特有の各疾患の診断・治療について理解する。				
[概要] 精神疾患について学ぶ。				
[目標] 1. 精神科疾患の現れ方について理解する。 2. 精神科での治療について理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	染色体異常・体内循環により発症する先天異常 新生児 代謝性疾患：新生児マススクリーニング 先天性代謝異常症(フェニルケトン尿症)		講義、PP
	2	循環器疾患：先天性心疾患 消化器疾患：ヒルスシュプルング病、 鎖肛、先天性食道閉鎖症		↓
	3	代謝性疾患 内分泌疾患：糖尿病 免疫疾患・アレルギーリウマチ性疾患：食物アレルギー、気管支喘息		講義、PP
	4	感染症第 呼吸器疾患：細菌感染症、ウイルス性感染症 肺炎		↓
	5	循環器疾患：川崎病、乳幼児突然死症候群 消化器疾患：口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、先天性胆道閉鎖、 急性乳児下痢症、腸重積		↓
	6	血液・造血器疾患 悪性新生物：貧血、白血病、脳腫瘍 神経芽腫、ウィルムス腫瘍		↓
	7	腎・泌尿器および生殖器疾患：ネフローゼ症候群 尿道下裂 精神：発達障害 神経疾患：二分脊椎、水頭症、てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺		↓
B	1	精神科疾患のあらわれ方 A～B		講義、PP
	2	↓ 精神障害の診断と分類（統合失調症）		↓
	3	精神障害の診断と分類（気分障害 他）		↓
	4	(神経性障害 他)		↓
	5	↓ (各発達段階での現れやすい精神障害・心的不調)		↓
	6	精神科での治療 精神療法		↓
	7	↓ 薬物療法 電気けいれん療法 環境・社会療法		↓
		↓ 学科終了試験		
【使用テキスト】 医学書院		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論		評価割合：単元A 50%、単元B 50% 学科終了試験		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 第5章～6章				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある小児科医師2名、精神科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名
授業科目名	形態機能学 I	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
<p>[概要]</p> <p>看護の主眼は、病んだ時には健やかなときにも、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。</p> <p>生活行動は、すべてのからだのはたらきの上に成り立っている。</p> <p>看護実践にとってからだがどのように、これらを成し遂げているのか理解することが必要である。</p> <p>[目標] (生活・看護)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の外から透視した、内臓の形、位置関係、名称を知っている。 2. 人が生物として生きていることを、体の仕組みから説明できる。 3. 生きていることを支える日常行動を知っている。 4. 日常生活行動の最も一般的な型について、体の仕組みが説明できる。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、P P、DVD、等）
1	生きているとはどういうことか			GW講義、P P
2	呼吸する I			↓
3	呼吸する II			↓
4	食べる II			↓
5	食べる I			↓
6	捨てる I			↓
7	捨てる II			↓
8	捨てる III			↓
9	細胞に物質と呼吸ガスを運ぶ			↓
10	体を守る、出血を止める			↓
11	他の生物の親友に打ち勝つ			↓
12	心臓が動く			↓
13	血圧を保つ			↓
14	認識し、判断し、記憶する			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会		学科終了試験		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある大学准教授が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
授業科目名	形態機能学Ⅱ	単位数・時間数等	1 単位 30 時間	外部講師
		授業回数	14回 + 試験	
[概要]				
健康障害により生じる症候に着目し、発症のメカニズムの理解などにより、疾病の予防や苦痛の緩和につながる看護を自ら考え、実践するための基礎的知識について学ぶ。				
[目標] (症候論)				
1. 主要な症候理解のために解剖生理学などの基礎知識を活用することができる。				
2. 症候の原因や症状、発症のメカニズムを理解することができる。				
3. 1, 2の知識が症候の発症予防や症状緩和をめざす看護につながることを理解できる。				
4. 症候論の学習の重要性に気づくことができる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態 (講義、GW、PP、DVD、等)
1	ショックの原因・種類と症状を理解し、看護を考える			講義、PP、GW
2	↓			ミニテスト ↓
3	不整脈の起こる原因と種類、特に致死的不整脈について理解を深め、看護を考える			講義、PP、GW
4				ミニテスト ↓
5	チアノーゼの原因と種類、全身の状態を理解し、看護を考える			講義、PP、GW
6	↓			ミニテスト ↓
7	浮腫の原因・種類と症状を理解し、看護を考える			講義、PP、GW
8	↓			ミニテスト ↓
9	脱水の原因・種類と症状を理解し、看護を考える			講義、PP、GW
10	↓			ミニテスト ↓
11	グループワーク			GW
12	↓			↓
13	発表			発表
14	↓			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位・成績の認定方法】		
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 副読本：看護過程に沿った対象看護 学研		学科終了試験		
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
15 時間		前回の講義資料を復習する テキストの関連部分読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある保健師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
授業科目名	医療概論	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師 医師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要]				
<p>医療者の仕事を目指すための、一歩として、医療全体を見渡しすべての教科につながる基礎知識を学ぶ上での医療者としての実践の心構えを学ぶ。</p> <p>医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について学ぶ。</p> <p>医療のあり方が根底から変貌しつつある今日、医療の新しい展開について保健・医療・福祉の総合的な理解の上に立ち学び、看護の目指すべき大きな目標を明確にする。</p> <p>医療や看護の原点についてあらためて考える機会とし、人々の健康生活の保持・増進のための知識を活用できる能力を養うことをねらいとする。</p>				
[目標]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歩みや医療観の変遷を理解する。 2. 医療の発展や諸問題を学び、生命の価値や生きることの意義、医の倫理について理解する。 3. 医療と看護の原点について理解し、職種を理解を深める。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	医療職のプロフェッショナリズム、生きることと死ぬこと			講義、PP
2	健康とは、医学・医療のあゆみ			↓
3	社会保障制度（医療・福祉・介護）			↓
4	保健と疾病予防			↓
5	日本の医療システム			↓
6	医の倫理、医療安全、現代医療の最前線と問題点			↓
7	医療経済学と医療政策			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野			学科終了試験	
健康支援と社会保障制度[1] 医療概論				
副読本：系統看護学講座 別冊総合医療論				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習）		
		前回の講義資料を復習する		
		課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある内科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	公衆衛生 I	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師 薬剤師
		授業回数	7回 + 試験	
<p>[概要]</p> <p>個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的な面からのアプローチをもとに、生活者の健康の保持・増進のための公衆衛生活動を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生のしくみを理解する。 2. 環境と健康について理解する。 3. 感染症とその予防対策について理解する。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	公衆衛生を学ぶにあたって			講義、PP
2	↓ のエッセンス			↓
3	↓ の活動対象			↓
4	↓ のしくみ			↓
5	集団の健康をとらえるための手法 一疫学・保健統計			↓
6	環境と健康			↓
7	感染症とその予防対策			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野			学科終了試験	
健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生				
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある薬剤師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	公衆衛生Ⅱ	単位数・時間数等	1単位 15時間	外部講師 薬剤師
		授業回数	7回 + 試験	
<p>[概要] 個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的な面からのアプローチをもとに、生活者の健康の保持・増進のための公衆衛生活動を学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健について理解する。 2. 母子・成人・高齢者・精神・歯科・障害者の保健について理解する。 3. 学校及び職場の健康や健康危機管理・災害保健について理解する。 				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	国際保健	地域における公衆衛生の実践（公衆衛生看護とは）		講義、PP
2		地域における公衆衛生の実践（母子保健、成人保健）		↓
3		(高齢者保健、精神保健)		↓
4		(歯科保健、障害者保健)		↓
5	学校と健康			↓
6	職場と健康			↓
7	健康危機管理・災害保健			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】		医学書院	【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野		健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生		学科終了試験
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある薬剤師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
授業科目名	社会保障・ 社会福祉 概論	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要] 社会保障の基本的な制度の考え方について学ぶ。				
[目標] 1. 社会保障の基本的制度について理解できる。 2. 社会保健制度の意義や社会資源の活用を理解できる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、G W、P P、DVD、等）
1	社会保障制度と社会福祉			講義、P P
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向			↓
3	医療保障（医療保障制度、健康保険と国民健康保険）			↓
4	↓ （高齢者医療制度、保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費）			↓
5	介護保険			↓
6	所得保障			↓
7	公的扶助			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第1章～6章			学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある介護支援専門員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	社会保障・ 社会福祉 地域	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
[概要] 生活者の生活問題に対する社会福祉制度と今後の課題について学ぶ。				
[目標] 1. 生活者の生活問題に対する法律と施策について理解できる。 2. 社会福祉援助について理解できる。（社会福祉士、介護福祉士の役割が理解できる） 3. 社会福祉行政と今後の課題について理解できる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	社会福祉の分野とサービス（高齢者福祉、障害者福祉）			講義
2	↓	(児童家庭福祉)		↓
3	社会福祉実践と医療・看護（社会福祉援助とは、個別援助技術）			↓
4		(集団援助技術、関節援助技術と関連援助技術)		↓
5		(社会福祉援助の検討課題、連携の重要性)		↓
6	↓	(社会福祉実践と医療・看護との連携、連携の場面とその方法)		↓
7	社会福祉の歴史			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】 医学書院			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第7章～9章			学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				
・実務経験がある介護支援専門員介護支援専門員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）】

分野等	専門基礎分野	配当学年・時期	3年次・前期	担当講師名
授業科目名	関係法規	単位数・時間数等	1 単位 15 時間	外部講師
		授業回数	7回 + 試験	
<p>[概要]</p> <p>健康対策に関する法律について学ぶ。</p> <p>[目標]</p> <p>1. 看護に携わる者が、国民の健康をまもり、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令を理解する。</p> <p>2. 看護に携わるものにとって最も重要な法である保健師助産師看護師法、及び医事や衛生、社会保障などの関係法令を重点的に理解する。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
1	法の概念 法の分類 衛生法 厚生行政のしくみ			講義、PP
2	看護法			↓
3	医事法			↓
4	保健衛生法			↓
5	薬務法			↓
6	社会保険法 福祉法			↓
7	労働法と社会基盤整備 環境法			↓
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位・成績の認定方法】	
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令			学科終了試験	
【自己学習時間】		【事前・事後学習】		
30 時間		テキストの関連部分読む（予習・復習） 前回の講義資料を復習する 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		
【実務経験と当該科目との関連】				